

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年目)

1. 研究課題

近代京都と文化

Modern Kyoto and Culture

2. 研究代表者氏名

高木博志

Takagi Hiroshi

3. 研究期間

2019年4月-2022年3月(3年目)

4. 研究目的

本研究では、近代の京都と文化を対象としつつ相対化する。今日、京都は、年間5500万人以上が訪れる世界でもっとも人気のある観光都市である。「日本文化を創り出してきた京都」、「おもてなしの文化」、雅な貴族文化などとバラ色に表象され、文化庁移転のうたい文句にもなる。こうした京都イメージは、近現代を通じて、政治的、社会的に創り出された側面が強い。それに対して近代京都の文化について、民衆の生活・花街の性・差別の問題といった周縁性や、文化をめぐる政治や地域社会とのかかわりなどを含み込んだものとして捉えなおしてゆきたい。そのために、政治・教育・社会運動・経済・社会・宗教・思想や美術・映画・文学・建築・造園など多様な歴史学の分野を専攻する研究者が、自分の専門領域から一歩踏み出して、近代京都の「文化」を広くとらえ直して考えてゆきたい。今まで行った、「近代京都研究」(2003～2005)「近代古都研究」(2006～10年)「近代天皇制と社会」(2011～16年)の共同研究を踏まえ、地域をめぐる学際的で批判精神に満ちたまとめにしたい。

This research will take modern Kyoto and culture as subjects and examine them in relation to each other. Kyoto, nowadays visited by more than 55 million people per year, is the most popular tourist city in the world. The city has been represented in such rosy expressions as “Kyoto, where the Japanese culture was created,” “the culture of hospitality,” the elegant aristocratic culture, which also became the promotional lines for the relocation of the Agency of Cultural Affairs to Kyoto. It is evident that such images of Kyoto were constructed politically and socially throughout modern times. With this in mind, we would like to re-approach the topics concerning the culture of modern Kyoto, which will include issues of marginalities such as the life of common people,

sexuality in red-light districts and problems of discrimination, and also the political significance of culture and its relations to local communities. To this end, many researchers who have concentrated on the various aspects of history such as politics, education, social movements, economy, society, religion, knowledge, arts, movie, literature, architecture, garden design, among others, have stepped outside their specialized areas and would like to rethink the culture of modern Kyoto through a broader framework.

5. 本年度の研究実施状況

本年度は11回、延べ21人の発表者による共同研究会を開催した。コロナ下でZOOMでの開催が主であった。若手からベテランまで、また専門分野の多様性においても学際的で総合的な共同研究を遂行できた。また4月例会の柏木知子・松川綾子報告は対面で行い、併せて吉田山周辺の掃苔を行った。11月14日には京都文化博物館で『太夫さん 女体は哀しく』（1957年）の映画上映と木下千花報告を、11月23日には大谷大学博物館において東本願寺と京都画壇の展覧会を観覧し國賀由美子報告を議論した。

今年度は「近代京都と文化」研究班の最終年度である。研究成果報告書に向けて、大正期の文学・美術・思想・映画が連動して起きるロマン主義的思潮、農民芸術・民芸・学術における戦時下の日本主義、京都の外からあるいは歴史からと時空をこえて「京都文化」を相対化する議論を深めた。

6. 本年度の研究実施内容

2021-04-03 富岡鉄斎と京都の大正壬戌赤壁会 発表者 柏木知子 兵庫県立美術館 吉川観方と京都文化 発表者 松川綾子 奈良県立美術館

2021-05-22 谷崎潤一郎の平安幻想についての覚書 発表者 藤原学 京都大学 水上勉「雁の寺」における京都のイメージ 発表者 イリナ・ホルカ 東京大学

2021-06-12 時局匡救事業と道路—京都府の道はどのように変わってくるか 発表者 高久嶺之介 文化財制度と近代ツーリズム—京都・奈良の「創られた伝統」はどのように浸透したのか 発表者 菅沼明正 九州産業大学

2021-07-31 岩倉具視とイギリス：仏典交流を通して 発表者 齊藤紅葉 国際日本文化研究センター 近代京都における副業奨励と農民美術 発表者 青江智洋 京都府立丹後郷土資料館

2021-10-23 明治期の東山の変化と美術商の活動 発表者 山本真紗子 立命館大学 市街地の拡大と日用品小売市場の出現 発表者 中川理 京都工芸繊維大学 発表者 和田露 京都工芸繊維大学

2021-11-14 戦後日本映画における島原—『太夫さん 女体は哀しく』（1957）と『廓育ち』（1964）を中心に 発表者 木下千花 京都大学

2021-11-23 東本願寺と京都画壇—近代への道程を中心に— 発表者 國賀由美子 大谷大

学

2021-12-11 尊攘堂における「活きた勤王」―近代京都文化を支えた人びと 発表者 池田さなえ 大手前大学 寿岳文章と『紙漉村旅日記』―1930年代後半の全国手漉紙業調査― 発表者 玉城玲子 向日市文化資料館

2021-12-27 京都の除夜の鐘 ～ラジオとの関わりに着目して～ 発表者 平山昇 神奈川大学 戦時下の新村出 発表者 福家崇洋 京都大学

2022-01-22 幕末京都の感染症対応～安政六年コレラ流行時の御千度をめぐって 発表者 鈴木則子 奈良女子大学 京都の近代染織と周辺地域―近江商人系企業の役割を中心に― 発表者 北野裕子 龍谷大学

2022-03-07 梶原緋佐子の初期作品について―女性画家が描いた花街・遊廓の女性― 発表者 植田彩芳子 京都文化博物館 明治神宮外苑聖徳記念絵画館壁画事業と京都の日本画家・猪飼嘯谷をめぐって 発表者 長志珠絵 神戸大学

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

高木博志、岩城卓二、高階絵里加、福家崇洋、永田知之

学内

谷川穰(京都大学文学研究科)、藤原学(京都大学人間・環境学研究科)、田中智子(京都大学教育学研究科)、木下千花(京都大学人間環境学研究科)

学外

長志珠絵(神戸大学大学院国際文化学研究科)、國賀由美子(大谷大学文学部歴史学科)、北野裕子(龍谷大学)、丸山宏(名城大学農学部)、玉城玲子(向日市文化資料館)、日向伸介(大阪大学言語文化研究科)、高久嶺之介(同志社大学)、山本真紗子(立命館大学)、平山昇(神奈川大学 国際日本学部国際文化交流学科)、加藤政洋(立命館大学文学部)、市川秀之(滋賀県立大学人間文化学部)、清水重敦(京都工芸繊維大学)、並木誠士(京都工芸繊維大学)、植田彩芳子(京都文化博物館)、大矢敦子(京都文化博物館)、中野慎之(文化庁文化財第一課)、原田敬一(佛教大学歴史学部)、本康宏史(金沢星稜大学経済学部)、中川理(京都工芸繊維大学)、ジョン・グリーン(国際日本文化研究センター)、細川光洋(静岡県立大学国際関係学部)、イリナ・ホルカ(東京大学大学院総合文化研究科)、鈴木則子(奈良女子大学)、池田さなえ(大手前大学総合文化学部)、柏木知子(兵庫県立美術館)、菅沼明正(九州産業大学)、松川綾子(奈良県立美術館)、斎藤紅葉(国際日本文化研究センター)、青江智洋(京都府立丹後郷土資料館)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
学内(法人内)	1	8	0	0	0	0	48	0	0	0	0
		(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(15)	(0)	(0)	(0)	(0)
国立大学	6	7	1	1	1	1	24	4	2	2	2
		(6)	(1)	(1)	(1)	(1)	(22)	(4)	(2)	(2)	(2)
公立大学	2	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
私立大学	7	12	0	4	1	0	55	0	11	5	0
		(5)	(0)	(2)	(1)	(0)	(23)	(0)	(7)	(5)	(0)
大学共同利用機関法人	1	2	1	1	0	0	11	2	5	0	0
		(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(8)	(0)	(5)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関	8	7	0	1	0	0	24	0	1	0	0
		(5)	(0)	(1)	(0)	(0)	(17)	(0)	(1)	(0)	(0)
民間機関	1	1	0	0	0	0	7	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
その他 ※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
計	26	39	2	7	2	1	172	6	19	7	2
		(20)	(1)	(5)	(2)	(1)	(85)	(4)	(15)	(7)	(2)

※「その他」の区分受入がある場合
具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員
無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数	
		うち国際学術誌掲載論文数
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	6	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)		
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	1	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)		
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)		

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

雑誌名	掲載論文数	掲載年月日	論文名	発表者名
史学雑誌	1	R3. 10	仏教教団の「近代化」における門信徒の経済的役割—明治期・西本願寺「有力門徒」らによる会社設立	<u>池田さなえ</u>
Inventing Ise in Meiji Japan. Routledge	1	R3	Revisiting Japan's Restoration: New Approaches to the Study of the Meiji Transformation.	<u>Breen, John</u>
Matsuri and Religion: Complexity, Continuity, and Creativity in Japanese Festivals. Brill	1	R3	Sannō Matsuri: Fabricating Festivals in Modern Japan	<u>Breen, John</u>
日本史研究	1	R4. 2	大阪府における病・医療とアメリカン・ボード医療宣教師——医の開化と地域化——	<u>田中智子</u>
欧文 ZINBUN Vol. 51	1	R4. 3	Real Animals and Where to Find Them: in the Works of Shimazaki Tōson and Shiga Naoya	<u>ホルカ イリナ</u>
(卞東波編) 縞紵風雅 第二屆 南京大学域外漢籍研究国際學術研討會論文集、中華書局	1	R3. 12	上野本《文選》小議	永田知之

雑誌名	掲載論文数	掲載年月日	論文名	発表者名
(鉄野昌弘・奥村和美編) 萬葉集研究 第41集	1	R4. 2	詩歌に伴う書簡—『万葉集』と唐代前期までの詩の贈答を通して—	永田知之
同志社大学人文科学研究所『社会科学』第51巻第4号	1	R4. 2	「草莽」から官僚へ—北垣国道の幕末・維新时期—	高久嶺之介
歴史学研究	1	R4. 2	安政五年コレラ流行をめぐる〈疫病経験〉—駿州大宮町榊屋弥兵衛の日記から—	鈴木則子
『近代画説』30	1	R3. 12	新古典主義と岸田劉生	中野愼之
『京都美術史学』3	1	R4. 3	朦朧体の再検討	中野愼之
朝治武・黒川みどり編『近代の部落問題』解放出版社	1	R4. 3	近代天皇制と部落差別	高木博志

本年度 共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
田中不二麿関係文書	谷川穰	R3. 12	思文閣出版
吉井勇の旅鞆——昭和初年の歌行脚ノート	細川光洋	R3. 11	短歌研究社
空想から計画へ—近代都市に埋もれた夢の発掘	中川理・空想から計画へ編集委員会	R3. 4	思文閣出版

11. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

12. 次年度の研究実施計画

なし

13. 次年度の経費

なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

2022年度に思文閣出版から高木博志編『近代京都と文化』（収録論文23篇予定）を刊行すべく、共同研究班の討論を踏まえて執筆作業にかかった。学際的な論集で、大正期のロマン主義的な思潮、戦時下の日本主義、「京都文化」を地域社会や外から相対化する論点を目指す。

本研究班で議論となった「文化」を相対化する視点は、次の「近代日本の宗教と文化」研究班（代表・高木博志、2022～24年度）に引き継がれる。また国家や制度ではなく地域社会や民衆の心性に迫る方法も、引き続き次の共同研究班の課題としたい。